

特別講演会

平成 28 年 6 月 28 日 (火) 14:00～

主催 札幌中小建設業協会

共催 札幌土木事業協会

全区災害防止協力会

札幌市除雪事業協会

テーマ「東日本大震災 現場からの証言 復興に向けての課題と提言」

講師 (一社) 仙台建設業協会 副会長

株式会社深松組 代表取締役社長 深松 努 様

次 第

13:00 受付開始

14:00 開 会

14:05 主催者代表挨拶 札幌中小建設業協会
全区災害防止協力会 会 長 安田 謙一

14:10 講師プロフィール紹介

14:15

～ 講 演

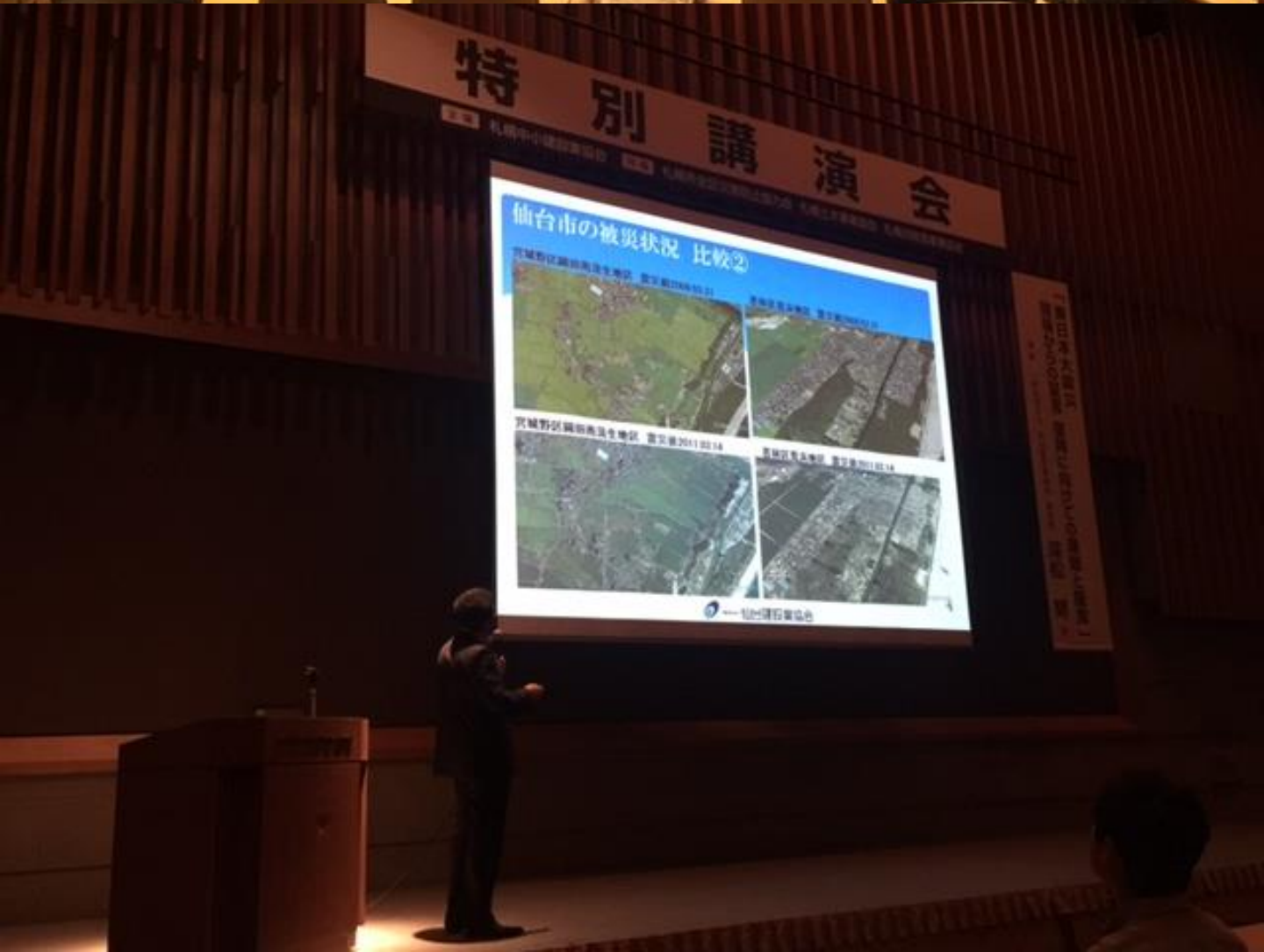
16:15

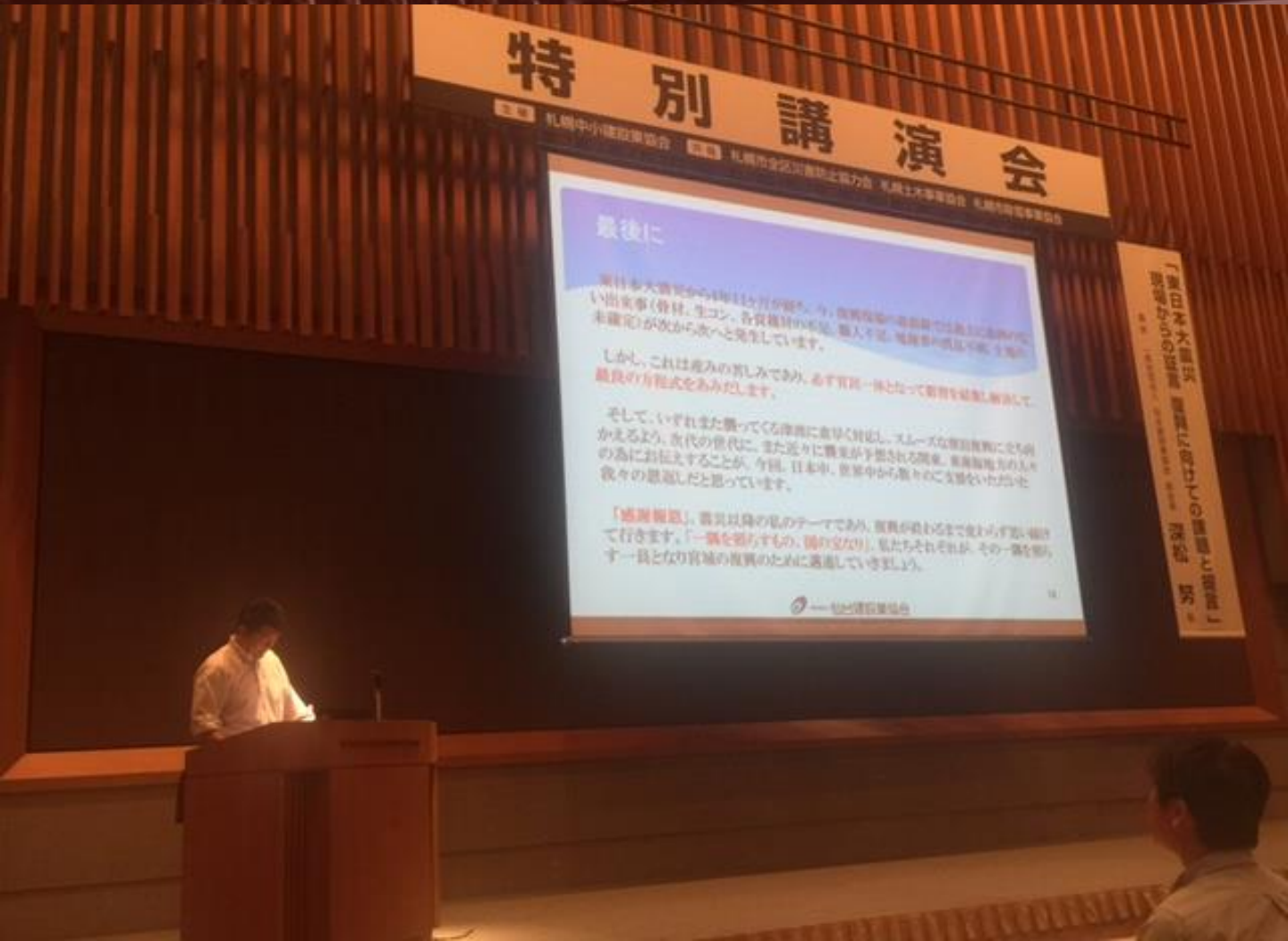
16:15 質疑応答

～

16:45

16:45 閉 会





特別講演会

主催 札幌中小建設業協会 協賛 札幌市会区別建設士協力会 札幌土木事業協会 札幌市建設事業協会

最後に

業界多大震災から4年ほど経ち、今、復興現場の復興費では最大の過剰のたいてい出費事(骨材、生コン、各資機材の不況、輸入不足、現場集約状況不明、工期の不確定)が次から次へと発生しています。

しかし、これは産みの苦しみであり、必ず百回一歩となって新質を産出し解決して、成長の方程式をみいだします。

そして、いずれまた襲ってくる津波に最早対応し、スムーズな復興復興に切り向かえるよう、次代の世代に、また近々に豊産が予想される復興、東海地方の人々の為にお伝えすることが、今回、日本中、世界中から集りのご支援をいたしたご後々の感謝したと思っています。

「感謝無双」、震災以降の私のテーマであり、復興が終わるまで変わらぬ思いで行きます。「一歩を踏み出すもの、国の支なり」、私たちそれぞれが、その一歩を踏み、一歩となり官城の復興のために邁進していきます。

「豊田大賞」 豊田以右の「道徳」の精神を継承する。

札幌中小建協

建設業を誇りに思う

深松仙台建協副会長が講演

札幌中小建設業協会（安田謙一会長）は28日、札幌コンベンションセンターで特別講演会を開いた。講師を務めた仙台建設業協会の深松努副会長は東日本大震災の復旧に携わった体験から「建設業をやっていて誇りに思う」と語り、地域に根差す建設業者が果たす役割

の重要性を訴えた。この講演会は東日本大震災から5年が経過し、多くの住民がいまだ仮設住宅での暮らしを余儀なくされる中、震災の恐ろしさや建設業の役割をあらためて確認するために開いたもの。札幌市全区災害防止協力会連絡協議会と札幌市

土木事業協会、札幌市除雪事業協会が共催に名を連ね、各団体の会員企業などから約500人が参加した。深松氏は、東日本大震災で発生直後から警察や自治体などと連携し、遺体捜索やがれき処理作業責任者として現場の指揮を執った。この体験を防



災や復興に役立てようと全国で講演活動を展開している。

東北の現状について深

官民一体で地域を守る重要性を説く深松氏

松氏は、仙台市内はほぼ

復興にめどが付いたが、沿岸部はかさ上げなどにあと5年はかかる」と被害の甚大さを指摘。

市と災害協定を締結し、定期訓練を続けていたことが迅速な活動開始につながったと振り返り、「官民一体で地域を守っていかなくては、人が住めなくなる。われわれが守るしかない」と強調した。

一方、生活インフラの維持に建設業が関わることで当たり前になり過ぎて、住民に存在価値が伝わっていないと懸念も。

「建設業は普段は町医者で、災害時は救急救命医だ」と例え、地域に欠かせない存在だと説いた。参加者は貴重な体験談から、今後の防災活動充実に向けたヒントを得た。